

防衛×民間デュアルユース：技術から「循環システム」への転換

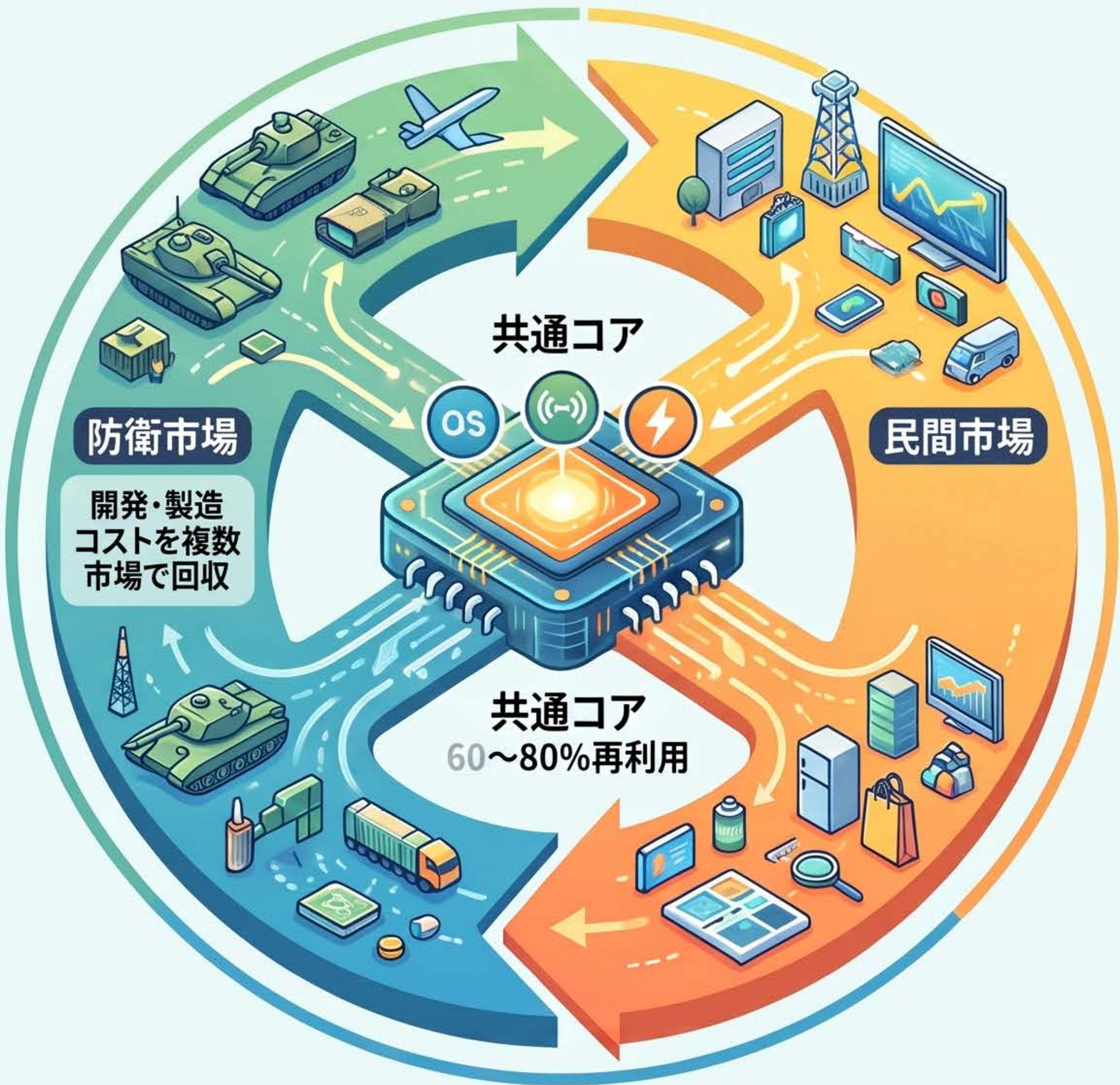
技術そのものよりも、汎用的な「共通コア」を複数の市場で使い回し、開発・製造・データのライフサイクルを一つのシステムとして回す能力が、今後の市場競争力を決定づけます。

勝てる設計「三層アーキテクチャ」

ソフトウェア定義 (Software-Defined) の加速
ハードの交換ではなく、データやコードの更新で性能を向上させ、現場への迅速な実装を実現する。



共通コアを60～80%再利用する：
汎用的なOSや通信、電源等の「コア」を共通化し、
開発・製造コストを複数市場で回収する。



デュアルユースを実現する4つのビジネス経路

経路	意味	事業上の要点
Spin-on	民生技術を防衛へ取り込む	民間の重産働格を保つつ、機密・耐環境性を追加
Spin-off	防衛成果を民生へ展開	軍仕様をそのまま売らず、コストやUXを再設計
Spin-around	初めから軍民共通課題を開発	災害・物流など、複数アンカー顧客で共通コアを開発
Dual-market	同じ技術コアを別製品で販売	売上・データを分散し、単一予算への依存を低下

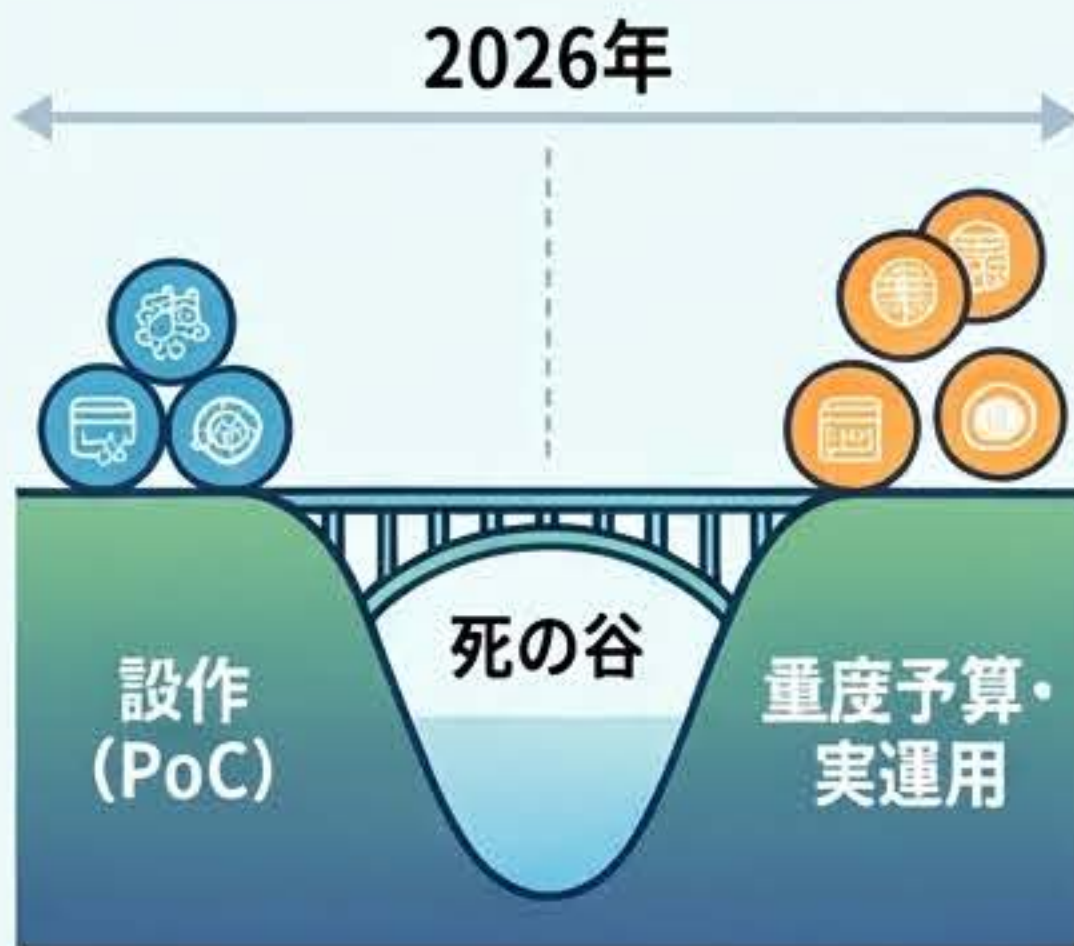
市場の展望と日本の現在地

500兆円
2040年、開拓民生市場 (TAM)

- フィジカルAI
- 宇宙通信
- 海洋インフラ

など、防衛技術と親和性の高い5つの市場の合計試算。

日本の制度が「原則可」へ転換：
防衛技術移転の制約撤廃や、
7,000億円規模の研究開発予算
など、参入の好機が到来。



「試作件数」から「移行率」への評価転換
試作 (PoC) で終わらせず、量産予算や
突進用へ繋げる「売の谷」の克服が最大の
ボトルネック。